

# 新潟県障害者リハビリテーションセンター 令和7年度事業報告書

## 1 令和7年度の概況

### 職員体制について

令和7年度は職員の入職、退職はなく、安定した職員体制のもと運営ができた。内部でサービス管理責任者を育成するために基礎研修に2名を参加させたほか、10月からの就労選択支援事業の開始に伴い、就労選択支援員を2名育成して新規事業の運営体制を整えた。さらに、労働力不足が懸念される中、職員一人ひとりの力を最大限に引き出せるよう、心理的安全性の醸成を意識した職場環境づくりを継続した。

### 新規利用者の確保について

当年度は、見学者30名（前年度29名）、体験者21名（前年度15名）と、いずれも前年度を上回る地域へのアプローチ機会を得ることができた。この積極的な連携の成果として、新規利用者数は29名に達し、令和元年度以降で最も多い受け入れ実績となった。これにより、近年続いていた減少傾向から脱却し、ようやく新規利用者数が退所者数（23名）を上回り、施設全体の活気と安定した運営基盤につながった。

### 利用者支援の成果について

既存および新規利用者への支援の質が向上した結果、退所者23名のうち、12名に対して各種就労形態への移行を達成することができた（一般就労：1名・復職：4名・福祉的就労（B型）：7名）。この成果は、次年度の加算（就労移行支援体制加算）に反映され、施設運営に良好な影響を与えることとなった。また、当施設は高次脳機能障害者の利用が多いが、職員が専門研修を受講し「高次脳機能障害支援体制加算」の算定要件を満たしたことも、専門的支援体制の充実と運営面双方において大きなプラスとなった。

### 利用者の声への対応と満足度向上について

当年度の利用者からの意見・要望等の受付件数は20件（うち投書意見14件）であった。本年度は特定利用者による継続的な意見提出が件数を押し上げる要因となり、その要望内容には対応に苦慮する面もあった。しかし、個々の要望に対して自立支援の観点から職員間で検討を重ね、利用者本人へ誠実な対話と説明を継続した。この真摯なアプローチにより、重大なトラブルや不信感への発展を回避し、相互の信頼関係を維持・構築するに至っている。

### 総括

令和7年度は、令和元年度以降最大となる新規利用者の確保に成功し、懸案であった登録者数の減少に歯止めをかけられた1年であった。さらに、利用者を就労等の社会参加へと導き、日々の意見要望に対しても誠実かつ適切な対応を徹底したことで、外部からも高い評価を受ける施設運営を実現できた。今後も「利用者の声」を真摯に受け止め、施設としての支援方針を丁寧に共有しながら、利用者とは協働してさらなる支援の質の向上に努めていく。

## 2 職員の配置状況

(当該年度 3月31日現在)

区分	職名	施設長	医師	サービス管理責任者	直接処遇職員							事務員	合計
					生活支援員	職業指導員	就労支援員	作業療法士	理学療法士	言語聴覚士	看護師		
基準定数①		1	1	1	常勤換算方法で3.4以上							1	
正規職員の配置②		1		2	4		1	1		1		1	10※
正規職員以外のものの配置③			[1]		9				1	1	1	1	12 [1]
現員計 ②+③=④		1	[1]	2	13		1	1	1	2	1	2	22 [1]

注) 嘱託医は〔 〕内で記入

※施設長は、サービス管理責任者を兼務

## 3 利用者の状況

(当該年度3月31日現在)

	男性	女性	計
入所者数	17	9	26
退所者数	15	2	17
在籍利用者数 (施設入所)	25 (13)	11 (3)	36 (16)

◎年間延べ利用者数 ( )は前年度

施設入所	機能訓練	就労移行	就労選択	生活介護	短期入所	合計
3,964 (3,854)	4,221 (4,411)	462 (871)	51 (0)	947 (1,033)	44 (22)	9,689 (10,191)

## 4 生活介護又は施設入所支援の実施状況

(当該年度実績)

**生活介護**

個別支援計画に基づき支援を行っている。来所時にはバイタルチェックを行い、利用者の健康管理に努めている。また、日中活動では、制作活動、机上課題、パソコン、自主トレーニング、グループワーク等を通じ、趣味の拡大や社会生活能力の向上に向けた支援を行っている。必要に応じて専門職によるリハビリ（PT・OT・ST）を実施し、自立支援およびQOL（生活の質）の向上を図っている。

**施設入所支援**

個別支援計画を基に支援を行っている。高次脳機能障害や身体機能の障害により、日常生活に困難を抱える利用者に対し、適切な介助や環境調整を通じて、自立に向けた支援（ADLの維持・向上）に取り組んでいる。また、看護師や栄養士による専門的な指導のもと、服薬管理・生活習慣・食生活などの健康管理を通じ、安心・安全な生活環境を整えている。

## 5 自立訓練又は就労移行支援の実施状況

(当該年度実績)

**機能訓練**

個別支援計画に基づき、PT・OT・STと緊密に連携しながら、機能向上に向けた支援を提供している。日中活動では、制作活動・机上課題・コミュニケーション・パソコン・自主トレーニングを実施。身体機能の維持改善や高次脳機能障害へのアプローチに加え、資格取得や認知機能の向上、趣味の拡大など、多角的な視点から支援を展開している。

また、社会生活力の向上を目指し、外出訓練や調理実習、グループワークなどの実践的プログラムを通じた社会参加への支援を強化。脳損傷後における自動車運転の再開については、医師や自動車学校との外部連携を図り、専門的な評価・支援体制を整えている。

**就労移行支援**

個別支援計画に基づき、一般就労および復職を目的とした包括的な支援を展開している。具体的には、PC資格取得等のスキル向上支援、履歴書・職務経歴書の作成指導、面接対策を実施。また、訓練用ソフト「OAWork」を活用した実務に近い事務作業訓練を提供し、就労アセスメントを通じて本人の強みを活かせる職域の開拓に努めている。さらに、復職先や実習先との調整役として、利用者への助言や企業側への合理的配慮の提案を積極的に行っている。近年高まっている在宅就労ニーズに対しても、オンライン面談の環境整備やICTスキル習得などの支援を強化している。

## 6 健康管理・衛生管理の状況

## (1) 利用者の健康診断の状況

(当該年度 3月31日現在)

期 日	受診済人数	検 査 内 容	実 施 状 況
R7年7月2日	9人 *利用者個々の状況は把握	身長・体重・BMI・ 握力・血圧・検尿・ 胸部X線・診察	新潟県障害者 リハビリテーションセンター 嘱託医
R8年2月3日 2月11日	6人 *利用者個々の状況は把握	身長・体重・BMI・ 握力・血圧・検尿・ 胸部X線・診察	新潟県障害者 リハビリテーションセンター 嘱託医

## (2) 職員の健康診断の状況

(当該年度 3月31日現在)

期 日	受診済人数	検 査 内 容	実 施 状 況
R7年5月、6 月	2人	問診・身長・体重・視 力・聴力・血圧・検尿・ 血液一般・腹囲測定・心 電図・胸部X線	新潟県障害者 リハビリテーションセンター ゆきよしクリニック
R8年1月	8人	問診・身長・体重・視 力・聴力・血圧・胸部X 線	
R7年6月、7 月、 8月	11人	問診・診察等・身長計 測・血圧・尿検査・便潜 血反応検査・血液検査・ 心電図・胃部X線・胸部 X線	外部検診 (新潟ウェルネス)

## 7 地域生活移行計画の実施状況

(当該年度実績)

各々の利用者の個別支援計画に基づいて、市町村及び相談機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、指定一般相談支援事業所等と連携して行っている。

## 8 サービス向上計画の実施状況

## (1) 自己評価・第三者評価の実施状況

(当該年度 3月31日現在)

第三者評価			
実施の有無	評価実施機関	実施時期	実施内容
有	公益社団法人 新潟県介護福祉士会	令和5年度	書面調査、利用者調査、 訪問調査

(2) 意見箱、利用者アンケート等の実施状況

(当該年度実績)

- ・ 苦情・要望等の受付 苦情・要望等：20 件  
(その都度、職員会議等で検討・対応を行っている)。
- ・ 利用者満足度調査 3 月上旬に実施
- ・ 食事アンケート調査 3 月上旬に実施

(3) オプションサービスの実施状況

(当該年度実績)

- 「その他の日常生活費」より、以下のサービス内容の実績があり。
- ・ 私用のコピー、FAX の使用
  - ・ 医療機関等への付添い送迎

(4) その他サービス向上のための取組

(当該年度実績)

自立訓練（機能訓練）および就労移行支援の利用者を対象に、月曜日から金曜日まで祝日も含めて訓練を実施し、利用者の活動量の維持に努めた。  
就労選択支援事業を開始し、就労アセスメントを多面的に行える体制を整えた。

9 利用者拡大計画の実施状況

(1) 広報・普及活動

(当該年度実績)

- ・ 見学者及び問い合わせ者へパンフレットを配布する
- ・ 義肢装具士の会社へ事業所の機能・役割を示した資料を配布（6 月）
- ・ 見学説明会の実施（R7 年 7 月 30 日）
- ・ 新潟市の各基幹相談支援センターが開催している連絡相談会へ広報活動（6 月）
- ・ 居宅介護支援事業所向けの勉強会で高次脳機能障害に関する講演（R7 年 11 月 7 日）
- ・ 県央地区の高次脳機能障害従事者研修会での講演（R8 年 1 月 23 日）
- ・ SNS（Instagram）の活用

(2) その他利用者拡大のための取組

(当該年度実績)

・ 医療機関、行政機関、相談支援事業所等の職員、障害当事者（家族）を対象とした施設の見学・相談を随時実施する

10 権利擁護計画の実施状況

(1) 苦情解決の仕組みへの取り組み内容

(当該年度 3月31日現在)

	設置の有無	誰をあてているか(職・氏名)
苦情受付担当者	①・無	看護師 佐久間 朋子
苦情解決責任者	①・無	所長 西片 寿仁
第三者委員	①・無	笠井 友治郎(元大学教員・ 元身体障害者更生相談所長) 渡辺 啓子(亀田小学校区コミュニティ協議会 副会長)
苦情解決のための要領、マニュアル等の作成の有無		①・無

(2) 苦情解決の仕組みの周知方法

(当該年度 3月31日現在)

利用者・家族等への周知方法	窓口等への提示	会報等への掲載	契約締結時の説明	その他
	①・無	有・②	①・無	
受付けた苦情内容及び解決結果の公表方法	事業報告書への掲載	会報等への掲載	その他	
	①・無	有・②	居住棟に掲示・利用者朝会で報告	

(3) 虐待防止に向けた取り組みの状況

(当該年度実績)

<p>・事業所としてどのような体制(例:責任者の設置等)を整備しているか。 苦情受付の担当者を定め、虐待又はその疑いがある場合は、口頭や苦情受付箱への投書が出来るよう体制を整えている。</p> <p>・事業所としてどのような取り組み(例:研修の実施、掲示等)を行っているか。 <b>早期発見と日常的観察の徹底</b> 入浴介助時には、身体的な傷や痣(癍痕等)の有無に細心の注意を払い、虐待の早期発見に努めています。</p> <p><b>心理的安全性の確保と意見交換の活性化</b> 心理的安全性の高い組織づくりを推進し、現場の職員が声を上げやすい風土を醸成している。支援会議においては、日常の支援で得た「気づき」を積極的に共有し、虐待の芽を未然に摘むための検討を行っている。</p> <p><b>匿名通報システムの整備</b> 職員が日常的に利用する内部サイトから、Google フォームを用いて匿名で意見や懸念を投稿できる仕組みを構築し、虐待防止に関する通報・相談のハードルを下げる環境を整えている。</p>
---

**継続的な教育と外部視点の取り入れ**

虐待防止研修を年3回定期的実施し、職員の意識向上を図っている。また、虐待防止委員会を設置し、グループ内の他事業所と事例や知見を共有することで、常に最新の視点に基づいた支援体制へと更新を続けている。

**(4) 身体拘束の有無**

(当該年度実績)

身体拘束の方法	件数	身体拘束の必要な理由	記録の有無	家族等の確認の有無
無し				

**1 1 家族・地域・関係機関等との連絡体制計画の実施状況**

(当該年度実績)

個別支援計画策定後、サービス担当者会議を開催し必要に応じて、本人、家族、市町村障害福祉課、指定特定相談支援事業所、担当ケアマネージャーを含め支援計画の周知を行っている。

**1 2 環境への配慮**

(当該年度実績)

ゴミの分別に努め、資源ごみのリサイクル活用に貢献する。カラーコピーの使用を最小限にし、必要枚数以上の印刷はしないように努める。裏紙の再利用を積極的に行う。暖房の設定温度(暖房 20 度・冷房 26 度)を守る。9 時と 13 時に居室の照明、エアコンの切り忘れがないか巡回を行う。順次、照明を LED に切り替えている。職員間の情報共有はオンラインで行いペーパーレスに努めている。

1.3 災害事故防止対策の状況

(1) 防火管理者の状況

(当該年度 3月31日現在)

防火管理者職・氏名	交流センター 所長 佐々木 篤志	防火管理者講習会受講	H10年11月6日 受講
防火管理者選任年月日	R6年4月1日 選任	消防署への届出	R6年7月4日 選任

(2) 消防計画の状況

(当該年度 3月31日現在)

消防計画作成年月日	18年4月1日 作成	消防署への届出	18年4月1日 届出
職員への周知状況	「防災計画」「事故対応・防災計画書」の個人配布		
地震、台風等災害計画	「防災計画」の中に記載		

(3) 防災体制の状況

(当該年度 3月31日現在)

近隣施設・地域住民との協力体制	最終避難所として 向陽の里・あさひ園・亀田公園
夜間勤務職員の役割の明示	新潟ふれあいプラザ災害時の職員初動の体制に記載

(4) 消防署の立入検査の状況

(当該年度 3月31日現在)

消防署の立入検査の実施 (直近のもの)	年 月 日 実施	所轄消防署名	
改善指示の内容	※ふれ愛プラザの報告に順ずる	左に 対する 改善 状況	消防署に対する 改善報告年月日
			年 月 日

(5) 消防・防災訓練の状況 ※ふれ愛プラザ全体の訓練 (5月・11月)

(当該年度実績)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
消防訓練 (該当箇所に○印)	実施日	22日	23日	30日	28日	25日	30日	22日	19日	15日	19日	24日	9日	12	
	実施内容	避難			○	○	○			○		○	○	○	7
		救助							○						1
		通報													
		消火													
	消防署への事前通知														
	消防署の立会い														
	近隣施設、地域住民の参加														
その他の防災訓練 (地震、水害、伝達訓練)	夜	○	○	○			○					○		6	
消防器具・避難経路等の自主点検										○		○		2	
消防署による 検証指導の実施	(実施済のときは、実施年月日及び指導内容) 実施年月日： 指導内容：														

(「○」…実施、「夜」…夜間想定訓練)

1.4 職員の資質向上等人材育成の状況

(1) 職員会議等の開催状況

会議名	開催日	記録の有無	参加者
職員会議	不定期	⑦・無	訓練配置以外の全職員
支援会議	毎週水曜日	⑦・無	訓練配置以外の支援員・看護師
経営戦略会議	第2水曜日	⑦・無	事務局長、所長、サビ菅

## 新潟県障害者リハビリテーションセンター

## (2) 職員研修の状況

## 令和7年度 研修実績

	主催	研修名	実施年月日	参加者
法人内部	研修委員会	感染予防、嘔吐物の処理方法、スタンダードプリコーションについて	5月	職員全員
		虐待防止に関する研修	7月	職員全員
		就労選択支援とは	8月	職員全員
		身体拘束の適正化と虐待防止について	9月	職員全員
		感染症にかかわる業務継続計画について	9月	職員全員
		嘔吐物の処理方法について（2回目）	11月	職員全員
		虐待防止に関する研修	1月	職員全員
		感染に関するBCP	2月	職員全員
		感染症と災害に係るBCP	3月	職員全員
		救命救急講習	10月22日	本間・清野
外部研修	全国障害者自立訓練事業所協議会	全国障害者自立訓練事業所協議会総会・研究集会	11月27～28日	西片・佐竹
	新潟県社会福祉協議会	福祉職の為のトラブル対応研修	6月11日	佐竹
		気づく力研修	9月9日	佐久間
		会議ファシリテーション研修	11月17日	本間・鈴木
	高齢・障害・求職者雇用支援機構	障害者の就労支援に関する基礎的研修	6月23～24日	吉井
	新潟県中央福祉相談センター	新潟県サービス管理責任者基礎研修	7月2～3日	吉井・川辺
	厚生労働省	就労選択支援養成研修	12月13日	吉井
		就労選択支援養成研修	2月20日	佐竹
	新潟県リハビリテーション専門職協議会	第3回新潟県リハビリテーション専門職学術大会	12月20日	西片
	新潟市	新潟市障がい者虐待防止マネージャー研修会	12月24日	西片
新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会	新潟県 DWAT 基礎研修会	1月15～16日	吉井	